

<b>Title</b>	クリティカル・リーディングの導入と実践
<b>Author(s)</b>	中川, 英幸
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.5, 2012.3 : 12-18
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3876">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3876</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

# クリティカル・リーディングの導入と実践

中川 英幸

## はじめに

近年の英語教育においてクリティカル・リーディング (critical reading)、あるいはクリティカル・シンキング (critical thinking) という言葉をよく耳にする。ただこのクリティカル (critical) という語を辞書で調べてみると、「批評の」・「あら捜しをする」等の訳語が出てくる。その為、学生だけでなく教員もこの言葉を正しく理解しないで使っている場合がある。またリーディング・クラスを担当している教員の中にも、「クリティカル・リーディングと言う言葉は聞いたことがあるが、どう教えて良いか分からない」と言った声をワークショップ等で時々耳にする。

そこでここでは、クリティカル・リーディングと言う言葉を定義し、実際どの様にこの読解方法を授業で導入するのかを示したいと思う。そしてクリティカル・リーディングの学習効果を、この読解方法を授業で行ったクラスのアンケート結果を用いて示したいと思う。アンケートを行う際には、以下のクリティカル・リーディングに関するリサーチクエスチョンを掲げてみた。

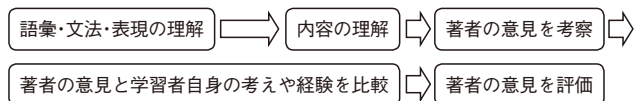
1. クリティカル・リーディングの授業はリーディング力を伸ばすのに役に立つのか?
2. クリティカル・リーディングの授業は、学生にとって楽しいのか?あるいは難しいのか?
3. クリティカル・リーディングを行うことによって、リーディング能力だけでなく、他の能力も伸ばすことができるのか?

## クリティカル・リーディングとは

ブラーコム (2000) によると、クリティカル・リーディングとは、リーディング教材をただ単に読み、理解するだけでなく、その内容に対して学習者が疑問を投げかけ、著者の意見と学習者自身の考えや経験を比較・評価することにより、

学習者がより深く教材の内容を理解する事ができると述べている。通常のリーディング・クラスでは、学習者が教員より与えられた教材の語彙、語法、パラグラフ構成等を確認しながら内容を理解する (訳す) だけで終わってしまう。しかしクリティカル・リーディングを行うクラスでは、この作業以外に、著者の言いたいこと (伝えたいこと) を本文より抽出し、その意見に学習者自身の考え、経験が賛同、又は反対するのか決めてもらう (スパック、1990)。そしてその著者の意見が正しい考察に基づいた物なのか、あるいは偏見によるものなのかを最終的に学習者に判断してもらう (ハリス&ホッジズ、1981)。すなわちクリティカル・リーディングを導入したクラスとは、学習者が書かれている内容を文字通り理解するだけではなく、著者の意見をしっかりと考察→吟味→評価できる能力を養う事が出来る、高度なリーディング技法の授業である。

図1 クリティカル・リーディングの流れ



## なぜクリティカル・リーディングを授業に導入するか

クリティカル・リーディングを実際に授業で導入するには、かなり高度な読解力を必要とする。また通常のリーディング授業よりも多くの時間が掛かる。しかしながら何故この読解方法を学生に導入する必要があるかと言うと、クリティカル・リーディングは、教材に書かれている内容を理解するだけの受身的な学習ではなく、学習者が積極的かつ能動的に参加できる読解作業の1つである (マクホーター、2000)。教材に書かれている著者の考えを、学習者自身のフィルターを通じて考え、評価する事により、学習者がより能動的な読解練習を行う事が出来るのである。またクリティ

カル・リーディングに適した教材は、新聞記事やニュースと言った、学習者により身近な素材である。それらを利用する事によって、学習者がより現実的なシチュエーションで読解能力を伸ばすことが出来る（スチュワート&ストローラー、1990）。クリティカル・リーディングを行うことにより、授業後も学習者がそのトピックに興味を持ち、より多くの事柄を自分で学習しようとするので、学習者の自律学習の確立を手助けする（ディスレスウエイト、1990）。そして授業で学んだクリティカル・リーディングのスキルを用いて、学習者が実生活において新聞や雑誌の記事を読む際にもこの読解方法を実践する事が出来る。それにより、より多くの情報の中から必要な物だけを自分で考え、選んで吸収できる（ディスレスウエイト、1990）。その結果、学習者はクリティカル・リーディングは意味のある学習であると実感できる（ウィルソン、1988）。以上が昨今の研究、論文等で述べられてきたクリティカル・リーディングの有効性であり、実際の授業にこの読解技法を導入しようと思ったきっかけである。

## クラスと学生

クラス設定は、語学専門学校である神田外語学院の英語専攻科2年生、22名である。すべての学生が高校、又は大学卒業後に神田外語学院に入学し、英語を勉強している。授業は前期・後期ともに13週からなる通年カリキュラムで、「通訳コース」、「翻訳コース」、「英語ビジネスコース」の3つから学生はコースを選択する。各コースは成績順にAクラスからDクラスまでである。学生のレベル分けは、1年時に2回受験したTOEICテストの平均スコアと授業成績によって決定される。授業は1コマ90分で、1週間に1回リーディング・クラスがある。リーディング・クラスは全コースで必修となっている。学生たちはその他にもTOEICテスト対策や通訳、翻訳技法を習得する専門コースの授業を選択し、ネイティブ教員が担当

するコミュニケーションの授業も1週間に180分ある。

クリティカル・リーディングを導入したクラスは、「通訳コース・Aクラス」の22名である。このクラスは上級レベルに位置付けられ、TOEIC平均スコアは690点であり、クラス最高得点者は870点である。22名中2名の学生は日本の4年制大学を既に卒業しており、4名の学生は英語圏で1カ月以上の留学経験がある。

## 神田外語学院でのリーディング・クラス（2年生必修）の学習目標

このクラスの学習目標は3つある。1つ目は、日本語から英語へ訳しながら進める内容理解ではなく、ネイティブスピーカーが行っている様な、スキミング（skimming）、スキヤニング（scanning）、パラグラフ・リーディング（paragraph reading）といった技法を習得し、それらを駆使しながら内容を全体的にとらえる事が出来るようになることである。これにより、学生のリーディング・スピードも向上する。2つ目は、英語圏のビジネス現場や生活で実際に使われている語彙を授業を通じて習得する事である。それにより、TOEICやその他の資格試験にも対応できる語彙力のアップにつながると考える。3つ目は、リーディングによって得た知識を、発信できるようになる事である。この事が学生のスピーキング能力、ライティング能力の向上にもつながる。神田外語学院では、1年時にもリーディング・クラスは必修として用意されており、学生は短い文章を読みながら様々なリーディング技法の習得に励んでいる。2年時では教材の文章が長くなり、ボキャブラリーレベルも上がった、より複雑な教材を用いながら学習目標の習得に励んでいる。ただし授業で使用する教材には、クリティカル・リーディングを扱う章がなかったが、クリティカル・リーディングは上記の学習目標を習得するのに役立つと思ったので学生達に導入した。

## リーディング・クラス（必修クラス）へのクリティカル・リーディングの導入

リーディング・クラスは通年の授業であるので、前期はスキミング、スキヤニング、パラグラフ・リーディングと言ったリーディング技法の習得と、それらの技法を駆使しながら教材を読み進め内容を理解する授業を行った。授業の進め方は、まず教材を読む前に背景知識を学生に導入し、内容を予測してもらい（pre-reading activity）、それから授業で学んだリーディング技法を使いながら学生に読み始めてもらった。その際には、著者の意見（thesis statement）や重要と思われる個所にアンダーラインを引きながら教材を読み進めてもらった（while-reading activity）。読解終了後に内容確認用のハンドアウトを解きながら書かれていた内容をもう一度確認してもらった（post-reading activity）。また1つのトピックを読み終わってから語彙、文法、語法を学生に確認してもらった。ただし使われている語彙や文法が複雑な場合は、学生が読む前にpre-readingアクティビティーの1つとして導入した。授業のペースは、1週間にほぼ1つのトピックを読み終わる速さであった。

後期の授業では、前期に行ったストラテジー・ベースの授業の他に、クリティカル・リーディングを学生達に導入した。前期は市販の教材を使用した。後期はクリティカル・リーディングに適した市販教材が見つからなかったため、英字新聞を使用した。特にUSA Today紙では、あるトピックに関して賛成と反対の相反する立場で書かれた記事（社説）があるので、それらをしばしば利用した。また英字新聞を教材として利用した理由は以下の通りである。

1. 学生の興味を引きやすいように、より現実的なトピックで学習できる（スチュワート&ストローラー、1990）。
2. 英字新聞を利用する事により、教材がオーセンティック（authentic）なものになる。
3. USA Today紙などでは、比較的簡単にある1

つのトピックに関して相反する2つの立場（pros vs. cons）で書かれている記事が見つられる。そしてそれらをクリティカル・リーディングの授業で使う事ができる。

4. 授業終了後でも、そのトピックに関して学生が他の新聞記事やインターネットを使って調べる事ができる。その結果、学生の自律学習の確立に役立つ（ディスレスウエイト、1990）。
5. 学生が「通訳コース」を選択している上級レベルの学生であるので、彼らが日本語では知っているニュースや語彙をどう英語で表わすのか確認してもらうのに役立つ。その結果、語彙力の向上に役立ち、通訳技法を勉強するクラスでもそれらの語彙を使う事ができる。

授業の進め方は、3週間で1つのトピックを扱う形式とした。1週目は、前期と同じようにpre-readingアクティビティー、while-readingアクティビティー、post-readingアクティビティーを行いつつながら内容を確認してもらう。その後post-readingアクティビティーの際に、トピックに関してその記事が賛成の立場で書かれているのか、又は反対の立場で書かれているのかを学生に決めてもらう。2週目も1週目と同じように授業を進めるが、記事は前週の立場とは反対の立場で書かれた記事を学生には読んでもらう。そして3週目に学生には、どちらの立場がより学生達の意見に近いのか、またなぜその記事に同意・反対したのかをディスカッション形式で発表してもらった。その際には日本語でディスカッションをしてもらった。学生のレベルからすれば英語でのディスカッションは可能であるが、22名ではディスカッションを行うには人数が多かったので、ディスカッションが円滑に進められるように母国語の使用を認めた。また英語では学生が自分の意見を正確に伝えられない場合があるかもしれないので、ディスカッションは母国語で行うこととした。そしてディスカッ

ション終了後には課題として、1週目と2週目で読んだ記事とディスカッションで話し合われた内容をベースにリフレクション・ペーパー (reflection paper) を書いてもらった。そこでは必ず学生はどちらの立場を支持するのかを明記し、両方の記事より著者の考え・意見を抽出してもらい、何故その意見に賛成・反対したのかを日本語、英語のどちらかで書いてもらった (付録Aを参照)。日本語を可としたのはディスカッションを日本語で行ったからである。

### リーディング・クラスの評価法

リーディング・クラスは必修の授業であるので、成績はAからD、不可 (F) までである。前期の成績は、ボキャブラリー小テスト40% (10点満点のテストを4回実施)、定期試験40% (100点満点で換算)、課題提出20%で成績が付けられた。ボキャブラリー小テストは2つのトピック (2ユニット) を学習後に行った。また前期定期試験は授業最終日に行われた。後期の成績は、ボキャブラリー小テスト40% (10点満点を4回実施)、リフレクション・ペーパー 40% (10点満点を4回提出)、定期試験20% (100点満点で換算) で付けられた。前期と違い、ボキャブラリー小テストは1トピック終了毎 (相反する立場で書かれた記事を読んだ後) に行われた。またリフレクション・ペーパーの提出期限は、ディスカッションを行った週の1週間後とした。後期定期試験は、授業最終日にクリティカル・リーディングを試験時間内 (90分) で行ってもらい、リフレクション・ペーパーを書いてもらう形式とした。

### クリティカル・リーディングに関するアンケートの実施

後期授業最終日の1週間前 (定期試験1週間前) にクリティカル・リーディングに関するアンケートを学生に実施した (付録B参照)。主な内容は、クリティカル・リーディングは学生のリーディング能力向上に役立ったか、また学生のリー

ディングに対するモチベーションは上がったかをリッカート尺度 (Likert Scale) を使って調べてみた。またクリティカル・リーディングを導入する事によって、他にはどんな能力が伸びたと学生が実感できたかや、どんな問題点に直面したかも記述式 (open-ended questions) で記入してもらい調査をしてみた。クラス全体の学生数は22名だが、3名がアンケート実施日に授業を欠席したので、19名より回答が得られた。

### アンケート結果の考察

リッカート尺度を用いた学生アンケートの質問 (Q1からQ5まで) とそれぞれの回答の平均値を以下に示す。

表1 学生へのアンケートの質問

Q1:クリティカル・リーディングは、リーディング能力を伸ばすのに役立ったか?
Q2:クリティカル・リーディングをリーディングの授業内で行う事は、意味があると思うか?
Q3:クリティカル・リーディングを導入した授業は楽しかったか?
Q4:実際にクリティカル・リーディングを行ってみて、難しいと思ったか?
Q5:クリティカル・リーディングをもっとやりたいと思ったか?

表2 学生による回答の平均値とSD

Question#	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5
Mean	3.26	3.75	3.79	3.32	3.74
SD	1.05	1.04	1.03	0.82	1.19

アンケート結果を考察してみると、Q1の平均値は3.26 (SD 1.05) と決して高い数値ではなかったが、19名中8名の学生が「そう思う」、1名が「強くそう思う」と回答していた。またQ2に関しては、平均値は3.75 (SD1.06) と高いものとなった。ここでは19名中7名の学生が「そう思う」と答え、4名の学生が「強くそう思う」と回答した。これら2つの質問に対しての学生達からの回答を考察すると、クリティカル・リーディングは、学生達のリーディング能力を伸ばすのに役立ち、習うには価値があるとクラスの半分以上の学生達は考えてた。

Q3とQ5の回答も高い平均値を示していた。



Q3では、19名中8名の学生が「そう思う」、5名が「強くそう思う」を答えていた。Q5では、6名の学生が「そう思う」、同じく6名の学生が「強くそう思う」と答えた。この結果から、クラスの60%以上の学生がクリティカル・リーディングの授業を楽しみ、もっと続けたいと考えていた。このことは、学生達が高いモチベーションを保ちながらリーディングの授業を受けていたと言える。また7名の学生が、Q1、2、3、5すべての質問に対して「そう思う」あるいは「強くそう思う」を選んでいて。

一方で19名中3名の学生が、Q3でクリティカル・リーディングの授業を楽しめなかったと答えている。またこの3名の学生は、Q5でもクリティカル・リーディングをもうやりたくないと考えていた。このうち2名は、Q1と2でも「そうは思わない」または「全くそうは思わない」と回答していた。

上記の3名に共通した回答は、Q4で「そう思う」、「強くそう思う」を全員が選択していたことである。またこの内の2名は、Q6の回答欄に「ボキャブラリーと記事に書かれている内容を理解するのに時間が掛かった」、「単語が難しいので、辞書で意味を調べるだけで手一杯だった」と記入していた。この結果から推測すると、使用した教材 (*USA Today*) のボキャブラリーレベルが、上記3名のボキャブラリー知識・読解レベルよりもやや高いレベルにあり、授業の内容が難しかったと感じた様である。

### 記述式回答からの考察

Q3で「どちらでもない」、あるいは「そうは思わない」を選択した学生のなかにもQ6では「内容はそうでもなかったが、ボキャブラリーが難しかった」、「見たことがない単語がいくつも出てきた」等のコメントを書く学生がいた。19名中8名が語彙に関しての難しさをQ6で指摘していた。クリティカル・リーディングを行う為にあ

えて新聞記事を選んだのだが、語彙が難しかったので、クリティカル・リーディングの授業が難しいと感じた学生もいたようだ。

Q7に関しては、19名中10名の学生が語彙に関する知識が増えたと答えた。また2名の学生が、リーディング能力だけではなく、ライティング能力も伸びたと回答していた。この2名の学生のうち1名は、リフレクション・ペーパーを英語で作成したので、「自分の意見を書く際に様々な表現方法を辞書や教科書を使って調べていたら、語彙が増え英語を書く能力も伸びた」と答えた。もう1名は、「リフレクション・ペーパーを提出する前に、ネイティブスピーカーの先生に英文を必ず直してもらっていたので、そのたびに自分の知らない新しい英語表現を勉強できた」と記入していた。ブラウン (2001) によれば、リーディング能力とライティング能力をリンクさせながら学習する事が一番効率よくそれらの能力を向上させる事が出来るとある (integrated skills)。これらの学生によるコメントから、クリティカル・リーディングは他の英語能力 (English proficiency) を伸ばすのに役立つ可能性があると言える。

最後にQ8に関しては、2名の学生が「授業終了後にも学習したトピックに関する事柄を自宅で英字新聞、インターネットを使いながら詳しく調べてみた」と答えた。この事は、学習者の自律学習の動機づけになり、学生が自分自身で英語能力を伸ばすきっかけにクリティカル・リーディングがなる可能性がある。

### クリティカル・リーディングを導入するにあたっての課題

やはり一番の課題が教材の選択である。クリティカル・リーディングを実践してもらう為に英字新聞 (*USA Today*) を教材として使用したが、ボキャブラリーの難しさを指摘する声アンケートではかなりあった (8名がボキャブラリーの難しさをQ6で指摘)。このクラスの学生は、TOEICテストで平均670点を獲得しており、学内

では上級レベルの学生ではあったが、英字新聞記事を読み、クリティカル・リーディングを行う事が難しいと約15% (の学生) が感じていた。

では初級レベルのクラスにクリティカル・リーディングを導入する事は不可能、あるいは難しいのであろうか? トゥートロ (1981) は、初級レベルの学生にもクリティカル・リーディングを導入すべきであると述べている。例えば、2つのスーパーマーケットの広告を学習者に見せ、どちらのスーパーマーケットの方が学習者にとって安いと思うのか、買い物のニーズに応えられるのかを考えてもらうのもクリティカル・リーディングのアクティビティーの1つであると述べている。またディスレスウエイト (1990) は、学習者に映画を見せた後に原作を読ませ、映画と原作では何が違っているのか (あるいは同じなのか) や、学習者はどちらの話の方がより好きであったかを考えてもらうアクティビティーも、クリティカル・リーディングの1つであると述べている。

教員への負担となるが、*USA Today*などの英字新聞を教材として使う際には、一度難しい語彙表現を学習者が理解できるレベルに書き直す等の補助があれば、初級レベルの学習者にもクリティカル・リーディングの読解演習は導入できると考える。

## 結論

クリティカル・リーディングを授業に導入する場合は、確かに教員・学習者ともにかなりの労力が必要とするが、クリティカル・リーディングは学ぶに十分価値のある学習方法である。クリティカル・リーディングを行う過程で、学習者は教材に書かれている著書の意見を正しく考察し、自分自身の考えや経験と比べ、それを評価しなければいけないので、より高度な読解力が必要となる。そのクリティカル・リーディングの積み重ねが学習者の読解力アップにつながると考える。

また教材も新聞記事と言ったより身近で、オー

センティックなものを利用できるので、実社会に関連したトピックを読みながら学習者は英語を学ぶ事が出来る。学習者は、最新のニュースを理解するのに必要な語彙や表現を単純暗記のような学習 (rote learning) ではなく、より意味のある環境 (クリティカル・リーディングを導入した授業) で学習できる (meaningful learning)。その結果、学習者はクリティカル・リーディングをもっと実践してみたいと思い、学習へのモチベーションが上がると考える。

多くの日本人学習者にとって、クリティカル・リーディングは今までの学習スタイルとは違うものなので初めは戸惑うかもしれないが、上記の理由や今回のアンケート結果・回答を踏まえると、クリティカル・リーディングを導入した授業が日本の教育機関でもっと積極的に行われるべきであると考える。

## 参考文献

- Blerkom, D. L. (2000). *College study skills becoming a strategic learner* (3rd ed.). Belmont, CA: Wadsworth/Thomson Learning.
- Brown, H. D. (2001). *Teaching by principles* (2nd ed.). White Plains, NY: Pearson Longman.
- Harris, T., & Hodges, R. (1981). *A dictionary of reading and related terms*. Newark, DE: International Reading Association.
- McWhorter, K. T. (2000). *Study & critical thinking skills in college* (4th ed.). New York, NY: Longman.
- Spack, R. (1990). *Guidelines a cross-cultural reading/writing text*. New York, NY: ST. Martin's Press.
- Stewart, C., & Stoller, F. L. (1990, April). Critical thinking through opposing viewpoints. *TESOL Newsletter*, 4-5.
- Thistlethwaite, L. (1990). Critical reading for at-risk students. *Journal of Reading*, 33 (8), 586-93.
- Tutolo, D. (1981). Critical listening/reading of advertisements. *Language Arts*, 58 (6), 679-83.
- Wilson, M. (1988). Critical thinking: Repackaging or revolution? *Language Arts*, 65 (6), 543-51.

(付録 A)

### Reflection Paper用ガイドライン

1. 2つの記事に記事に共通するトピックは何か書きなさい。
2. もう一度2つの記事をスキミングし、それぞれの著者の意見=thesis statementが書かれている個所にアンダーラインを引きなさい。そしてそれらを要約しなさい。
3. もう一度2つの記事をスキミングし、それぞれの著者がthesis statementを支えるためにどのような具体例や詳細を述べているか確認しなさい。そしてそれらを簡単に要約しなさい。
4. 自分（学生）の意見はどちらの記事に近いのか書きなさい。その場合には必ず、2で抽出した著者の意見と自分の考えを比較・検討しながら、なぜその意見に賛成・反対したのか理由を詳しく書きなさい。
5. A4用紙1枚から2枚程度（英語なら400～800 words、日本語なら2,000～4,000字）にまとめ、提出しなさい。ただし必ずタイプすること。

(付録 B)

### クリティカル・リーディング授業に関するアンケート

Q1：クリティカル・リーディングは、リーディング能力を伸ばすのに役立った。

5                      4                      3                      2                      1  
(強くそう思う)    (そう思う)    (どちらでもない)    (そうは思わない)    (全くそう思わない)

Q2：クリティカル・リーディングをリーディングの授業内で行う事は意味があった。

5                      4                      3                      2                      1  
(強くそう思う)    (そう思う)    (どちらでもない)    (そうは思わない)    (全くそう思わない)

Q3：クリティカル・リーディングを行った授業は楽しかった。

5                      4                      3                      2                      1  
(強くそう思う)    (そう思う)    (どちらでもない)    (そうは思わない)    (全くそう思わない)

Q4：実際にクリティカル・リーディングを行ってみて難しいと思った。

5                      4                      3                      2                      1  
(強くそう思う)    (そう思う)    (どちらでもない)    (そうは思わない)    (全くそう思わない)

Q5：クリティカル・リーディングをもっとやりたいと思った。

5                      4                      3                      2                      1  
(強くそう思う)    (そう思う)    (どちらでもない)    (そうは思わない)    (全くそう思わない)

Q6：クリティカル・リーディングを行ってみて、一番難しいと思ったことは何か？

Q7：クリティカル・リーディングを行ってみて、リーディング能力以外、何か他の英語能力が伸びたと思うか？

Q8：クリティカル・リーディングで扱ったトピックを自宅学習でもう一度復習・確認をしたか？もしした場合は、何をしたら具体的に書きなさい。

Q9：その他このクラスへのコメント、リクエストがあればどうぞ。

(なかがわ・ひでゆき 聖学院大学非常勤講師)